

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	660695
施設名	新堀おひさま保育園
施設所在地	江戸川区新堀2-13-13
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「光と影」についての発見を楽しむ。

<テーマの設定理由>

園庭が南向きに位置しており、日々太陽の光を浴びながら生活している。窓から差し込む太陽の光を受けると「まぶしい」や「あったかい」と気付く姿があったことから光について発見を増やしたいと感じた。太陽の光を浴びることで健康な身体づくりへ繋がるため、心と体の成長を支援するためにも意欲的に戸外に出て遊び、その中で子どもの気付きを大切にしていきたいと思った。探索遊びや自然物への発見遊びが好きな様子が多く見られたため、光や影という物体ではない現象への興味を引き出したいと思った。

2. 活動スケジュール

第一回：10月「おひさまを探そう！」
第二回：11月「色々な形のおひさまを見つけよう！」
第三回：12月「影に色がついている！」
第四回：12月「自分で影をつくってみよう！」
第五回：2月「影絵劇を鑑賞しよう！」

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・天気の良い日に散歩に出向いて太陽を探せるようにした。
- ・散歩先で自然物（木の枝や葉っぱ）を用いて影作りをした。
- ・カラーポリ袋を何色か用意し太陽の光に透かしてみた。
- ・クリアファイルと油性ペンを用意し好きな色で塗って窓に貼り、影や覗いてそこから見える景色を楽しめるようにした。
- ・「かかしシャドウプロジェクト」の方を園に呼び、影絵を見せてもらった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 第一回：散歩先やテラスに出て太陽が顔を出すのを見つけた。眩しさや暖かさを感じた。
- 第二回：自然物を使って太陽にかざして影を見つけた。
- 第三回：カラーポリ袋を広げて太陽に透かし、色の付いた影を見つけた。
- 第四回：クリアファイルにペンで色を塗り太陽に透かしたり、覗いたりし、窓に貼ってステンドグラスのような一つの共同制作を行った。
- 第五回：影絵の演出を鑑賞し影の面白さや世界観を体験した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・太陽に着目するところから始めたが、子ども達も雲の間から見える太陽に気付き、「あ！」と指さす姿が見られた。友達が発見する事によって別の友達も探そうとする様子もあり、見つけられると嬉しそうにしていた。
- ・木や葉を光にかざして見る際には見慣れない様子もあり、地面の影を見るよりも太陽にかざす対象物に注目がちであった。まだ映し出していることを認識していない様子もあり、大人の視点や考え方は異なることが分かった。
- ・光と影の活動を始めることで日常生活における光と影を子ども達も自然と意識出来るようになっており、ベンチに座った際に後ろから太陽を浴びていて前に自分の影が映し出されることに子ども自身から気付く事が出来た。（「〇〇ちゃんの影あった！」）
- ・カラーポリ袋での色のある影においては、保育士がかざしていると自然に集まり興味を持ち、「あか！」や「むらさき！」と色を答える姿があった。少しずつ色の認識を言葉にできるようになってきているため、光と影だけでなく認知能力にも刺激を与え成長につながった。
- ・クリアファイルにペンでお絵描きをすると綺麗な色に染まり、色に興味を持っていた。一人一枚のクリアファイルを持つと透かして覗いてみたり、太陽にかざして影を作ってみる姿も見られた。今まで保育士が行ってきた影の作り方を自然と習得していることが分かった。また、どこなら綺麗に影が作れるのかなど考えながらかざすところを探す様子も見られた。最終的には一つの大きな作品にし、季節ならではのツリーを作るとキラキラ輝く影に夢中で見る様子があった。「〇〇くんがつくったよ」など自分が作ったものへの達成感や喜びを感じられていた。
- ・「かかしシャドウプロジェクト」の方々に来園して頂き、影絵を見せてもらった。暗い中で鑑賞に少し不安そうな姿も見られたが、うさぎやぶたなどの身近な影を見ることで興味を持つ事が出来、真似て自分の手でも影を作ろうとする姿があった。担任がスライドの後ろに立ち影として移ることで影になる変化を感じる事が出来、親しみを持ちながら楽しむ事が出来た。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・自分たちも日常生活の中で光と影に着目することなく過ごしていたが、今回の活動によって子どもの素直な発見の面白さや光と影の認識の面白さを感じる事が出来た。子ども達の興味のあるところから始めることで気付きを楽しんでいたりと、保育士自身も知らなかった発見や考え直させられる経験が出来た。
- ・保育士間で振り返りを行うと「次はこうした方が子どもも楽しいのでは？」や「日々の中でも光と影たくさん見つけられるね」など具体的な案が出て来て担任以外への報告も大切だと思った。また、2歳児クラスも同じテーマで進めていたが、比較すると子ども達の成長段階も感じられることができその学年の良さを感じる事が出来た。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	660695
施設名	新堀おひさま保育園
施設所在地	江戸川区新堀2-13-13
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「光と影」についての発見を楽しむ。

<テーマの設定理由>

園で大切にしたいことを見つめ直し、生活の中で気づきや発見を得て欲しいと思った。保育室や園庭によく日が差すこと、散歩に行く機会が多い事から「光と影のふしぎを感じよう」というテーマに目を向けた。

2歳児は身のまわりのことに「これなあに?」「さわってみたい!」と、毎日たくさんの興味や関心をもって過ごし、見たり触れたり動いたりしながら、少しずつ世界を知っていく大切な時期だと思う。身近にある光と影の不思議に出会うことは心が動くきっかけになり、見て・触れて・動いて確かめながら世界を知り「気づく」「試す」姿を引き出す。感性や五感を育むことにつながると考え、このテーマを選択した。

2. 活動スケジュール

第一回：10月31日 「光遊び」
第二回：11月17日 「光の色①・影の色①」
第三回：11月26日 「光の色②・影の色②」
第四回：12月9日 「光の色③・影の形」
第五回：12月22日 「影の形②」
第六回：1月22日 「光を作ろう」
第七回：1月27日 「ブラックパネルシアター」
第八回：2月18日 「光と色」
第九回：2月20日 「影絵劇鑑賞」

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・子どもが持ちやすいサイズの懐中電灯を複数用意し、じっくりと光遊びができるようにした。
- ・ライトテーブルとクリア積み木を設定して室内を暗くし、構成遊びを行った。
- ・カラーフィルムやセロファン紙、色水を使って太陽の光を通して光の反射を発見できるようにした。
- ・劇団「かかしシャドウプロジェクト」の方を招き影絵劇を見た。
- ・ブラックパネルシアターを親子で見る機会を設け、気づきや驚きを一緒に喜べるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

第一回：保育室や園庭で鏡を使用し、反射した光に気が付けるようにした。保育者は光を見つけられるような設定と関わりをしたが、子どもから影へ興味を持つ姿が見られたため、同時に壁面制作を用いて影遊びも行った。

第二回：机に置いてあるお茶が入ったコップを見て水面の輝きや光の反射に気が付いた。机に綺麗な模様が出ることに興味を持っていたため、カラーセロハンを使った制作も机に置いて観察した。影に色が付くことを驚いている様子だった。

第三回：前回の気づきを活かし、色水の入ったコップやペットボトルを用意した。机に置いて、色のついた光が反射する様子を観察した。色水が入ったペットボトルを園庭にも持って行き、太陽の光を使って様々な所へ映し出して遊んだ。

第四回：カラーセロハンを用いた制作を行い、完成した物を園庭に持って行き遊んだ。地面や壁に映る色に手を伸ばしたり追いかけてたりして触れようとする姿が見られた。

第五回：懐中電灯とパーテーションを使って影クイズをした。身近な物や子どもが興味を持っているものを題材にし、角度で形が変わることや光と物体の距離で大きさが変わる事を知った。

第六回：懐中電灯を1人一つ持ち、暗い遊戯室で光を作って遊んだ。好きな所を自由に照らし、じっくりと楽しむ事が出来た。

第七回：保護者参加の行事の中でブラックパネルシアターを行った。綺麗に光る模様に驚き喜び、それを保護者と共有することでさらに興味や楽しさを感じられていた。

第八回：トレース台とクリア積み木を使用して構成遊びをした。保育室を暗くする事でさらに光が増し、自由に楽しむ姿が見られた。クリア積み木を目に当てて視界の色が変わる事に気が付く姿も見られた。

第九回：影絵劇を通して影の面白さに引き込まれ、さらに興味を持つことが出来た。

子どもたちの「なんだろう?」「やってみたい!」という気持ちを大切にしながら、光と影をテーマにしたさまざまな活動を行った。活動の間に出た子どもの言葉や姿から内容を変更したり、素材を増やしたりしながら取り組んだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・鏡の反射で出来た光を見つけると指をさして他児に教える等、気づきを人と共有しようとする姿が見られた。
- ・机に置かれたコップの周りに反射した光が映っており、「きらきらしてる!」と1人が気付いた所から何人もの児が集まって来た。そこからコップの影の形や、水面が揺れると光も揺れる事に気が付いていた。
- ・カラーセロハンを使用した制作で光の色の違いを楽しむと、子ども達からも「つくりたい」という声が聞かれた。その後クリスマスの取り組みとして同じ制作を行い、個々が嬉しそうに太陽の光に当てて光遊びを楽しむ事が出来た。
- ・懐中電灯で映した影に「てがでた!」「うごいた!」と喜び、影の大きさが変わるたびに興味深げに見つめたり驚いたりする姿が見られた。
- ・キラキラ光る反射を追いかけてたり、ペットボトルの影がまるで写真のように写ることを楽しんでた。色の変化も楽しみ、五感を使って夢中で遊ぶ様子が見られていた。
- ・懐中電灯を持つことをとても喜んでいて、自由に光を映し出して楽しんでた。普段は覗かない棚の下なども光を当ててみるなど、子ども達自身からの発見や発信で活動が広がっていった。
- ・ブラックシアターでは展開があるごとに歓声をあげながら、幻想的な光の世界に引き込まれている様子であった。
- ・トレース台は初めて見る物だったため、興味深げに触れていた。クリア積み木で自由に遊んだことで、「いえ」「さんかく」と様々な形を構成して楽しんでた。クリア積み木を目に当てて視界の色に変化がある事に子ども達が気付く姿もあった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

光と影の活動を通して、子どもたちが「見て」「触れて」「動いて」確かめる姿がたくさん見られた。

影の変化に気づいて繰り返し試したり色や光の不思議さに目を輝かせたりと、一人ひとりの「やってみたい!」という気持ちがあふれ、それを実現していく姿に嬉しく思った。またそれを他児と共有し、一緒に楽しむ姿も多く見られ、子ども同士の関わりも感じられた。すくわくプログラムを通して影や光に着目する活動が増えたことで、別の活動や日々の生活の中でも子どもから影や光に注目する場面が多くあり、保育士もそこから気付く事や感心する事が何度もあった。

今後も子どもたちの小さな気づきや感動を大切にしながら、自然や環境に触れる活動を続けていきたいと思う。